



特集：水痘ワクチン定期接種が始まる

●平成26年10月1日から水痘ワクチンの定期接種が始まります。

ヒブ・小児用肺炎球菌・子宮頸がん予防ワクチンが定期接種になったときに、みずぼうそう(水痘)・おたふく・B型肝炎ワクチンを定期接種にすることが決まりました。水痘のみ、10月から定期接種になります。重症化して肺炎や脳炎を起こしたりして年間10名くらいの方が亡くなっています。また、小さい頃かかると帯状疱疹になりやすかったり、大人になって初めて感染すると重くなる傾向があります。是非、ワクチンで予防しましょう！

●接種対象者は、1歳からですが・・・

定期接種は、水痘にかかったことのない1歳以上2歳まで(3歳の誕生日の前日まで)のお子さんですが対象です。ただし、来年の3月31日までは、3歳以上4歳(5歳の誕生日の前日)のお子さんでも定期接種として1回のみ接種することができます。誕生によっては、特に平成21年10月や11月生まれのお子さん、平成25年10月や11月生まれのお子さんは2回目を接種できる期間が非常に限られてきます。このため、当院も10月と11月に限って、診察前の朝8時45分に予防接種の予約枠を設定します。

●接種方法は、

1回目から3か月以上の間隔で2回目が接種できますが、1回目の接種から6か月から12か月までの間隔での接種を勧めています。これまで、当院、小児科学会も 平成26年10月1日以降の水痘定期接種化の対象早見表

1回目から3か月以上の間隔で2回目を接種しましょうと勧めてきました。3か月以上と6か月以上の間隔での効果の差はほとんどありません。

	1歳誕生日の「前日」から 3歳誕生日の「前日」まで		3歳誕生日の「当日」から 5歳誕生日の「前日」まで		5歳誕生日の「当日」以降	
	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
接種歴なし	期間内のいつでも 定期接種として実施 (標準は1歳～1歳3ヶ月、 遅くとも2歳9ヶ月までに)	1回目から3ヶ月以上空けて 定期接種として実施	平成27年3月31日までの特例 1回のみを定期接種として実施 平成27年4月1日以降 1回目をいつでも 任意接種として実施が望ましい	1回目から3ヶ月以上空けて 任意接種として実施が望ましい	1回目をいつでも 任意接種として実施が望ましい	1回目から3ヶ月以上空けて 任意接種として実施が望ましい
任意接種で接種歴1回	(任意接種を1回目とカウント)	1回目から3ヶ月以上空けて 定期接種として実施	(定期接種を行わない)	1回目から3ヶ月以上空けて 任意接種として実施が望ましい	(1回目接種済み)	1回目から3ヶ月以上空けて 任意接種として実施が望ましい
任意接種で接種歴2回 (※間隔3ヶ月以上)	(接種不要のため定期接種を行わない)		(接種不要のため定期接種を行わない)		(接種不要)	
任意接種で接種歴2回 (※間隔3ヶ月未満)	(任意接種1回目を 1回目としてカウント)	1回目から3ヶ月以上、 かつ 2回目から27日以上空けて 定期接種として実施	(定期接種を行わない)	...	(1回目接種済み)	...定期接種検討中
罹患歴あり	(接種不要のため定期接種を行わない)		(接種不要のため定期接種を行わない)		(接種不要)	
	定期接種として実施	任意接種として実施				

●最後に、

水痘ワクチンは1回接種では重症化は防げますが、水痘にかかってしまうことが時々あることが、これまでのデータでもはっきりしています。2回接種をすることでほぼ発症を防ぐことができます。

定期で1回接種の方も、2回接種しましょう！

子どもの健康

ーインフルエンザ予防接種ー

梅雨が明け夏がきたと思っていいたら、お盆も過ぎ間もなくインフルエンザ予防接種の予約が始まる時期になりました。

当院も、9月12日(金)から予約を開始し、10月4日(土)から接種を開始します。詳しくは、ホームページや院内掲示をご覧ください。

なかなか予約が取れない等お問い合わせをいただいています。また、10月から水痘ワクチンの定期接種も始まるために混雑が予想されます。予防接種予約枠を拡大して対応しますが、これ以上は診療にも影響してしまいます。診療も非常に大切と考えます。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。

また、インフルエンザ予防接種の効果についても、無いとか疑問視する報道が時々あります。しかし、脳症などの重症化する場合は、発症からの経過が大変短く抗インフルエンザ薬での対応が難しいです。このため、麻疹風疹や水痘やおたふくといった他のワクチンと比べると有効率は低いですが、ワクチンで予防することが最も有効な方法です。

クリニックでの 看護師からの うれしいエピソード

子どもってすごいなあ・・・

時々聞いてしまうこんな一言・・・。

「悪い子だと、注射してもらおうよ。」

「静かにしないと、大きい注射にしようよ。」

決して、そんなウソは言わないで!!

小児科として、受診や注射という一つの経験を子どもにとって、「がんばれた!」と思える経験に少しずつでもしたいと思っています。

7.8カ月の赤ちゃんだって、診察室に入るだけでちゃんと泣き始める子もいる。2歳くらいになると先生を見たら、「きょう“ちゅうしゃ”する?」と何度も何度も聞いてくれる。3歳くらいには、「ねえねえ、モシモシして、アーンしたら終わり?みみはいや!だ!」とちゃんと自分の意見を述べる。そして、だんだん泣かずに一人でできて、「きょうは泣かなかった!!」と誇らしい顔でバイバイしてくれる。

毎日病気の子どもたちを見ているスタッフにとって、子どもの成長をみれる、貴重で非常にうれしい一時です。もっともっと“子どものすごいなあ”を見つけていきたいと思っています。(続)